

〈大学 報告〉

就業体験に行く前と行った後で自分はどう変わったか

「キャリア支援課 キャリア支援係長」

新型コロナウイルス感染症も落ち着き、三省合意によるインターンシップの定義が変わって2年目の夏の就業体験となりました。

本学では例年通り5月から7月までインターンシップ等に参加する学生に向けての学内説明会を実施しました。教室開催をはじめ、Zoom ライブ配信やオンデマンド配信でも開催しました。教室開催の際は説明会終了後、その場に於いて申請書記入会も行い、学生たちの質問に答えつつ申請を促しました。また、夏休み前の7月末からインターンシップ等直前研修をこれも教室、Zoom ライブ配信、オンデマンド配信で開催し、参加にあたっての心構えやマナー、事前準備の方法などを学んでもらいました。

今回の夏就業体験の参加申込者は205人で昨年度より6人減となりました。マッチング不可となった者は7人でした。またマッチング後の辞退者は15人で、内訳は他のインターンシップと重なったため8人、ゼミと重なったため1人、急用のため4人、体調不良のため2人でした。

一番心配していたのが、去年起こった未連絡による欠席です。受入先事業所の皆さまや山口県インターンシップ推進協議会の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしたため、今年は受入が決定した際に学生に渡す「受入決定通知書」に「欠席する場合は必ず連絡する」旨を記載し、口頭でも一人ひとりに注意を促しましたが、今年も未連絡欠席が1名発生してしまいました。本人に連絡すると体調不良とのことですが、またしても受入先事業所へご心配とご迷惑をおかけすることとなってしまったことは残念でなりません。来年こそはこのようなことがないよう指導を徹底してまいります。

また、8月29日、30日と台風10号が山口県に接近するというので、体験途中で中止となるものがいくつかありました。受入先事業所としては学生の安全を第一に考えた上での判断ですので、学生にとっては大変残念ではありますがやむを得ないと思っています。

いろいろトラブルもありましたが、就業体験を終え学生たちは皆、元気に10月からの後期授業に出席しています。就業体験に行く前と行った後で自分はどう変わったか、この度の貴重な体験をこれからの学校生活や来たる就職活動にどう活かすか、それぞれ考えてくれているのではないかと思います。就業体験を通じて自分が思うほど社会は甘くはなかった、もっと勉強しなければ、とってくれたら参加した意義はあったのではないのでしょうか。

ご多忙の中、学生たちを受け入れていただいた企業・官公庁等の皆さまには、厚くお礼申し上げます。また、山口県インターンシップ推進協議会コーディネーターの皆さまには、ご尽力いただきありがとうございました。次は春のインターンシップでお世話になろうかと思っています。今後も引き続きよろしく願いいたします。

多様なインターンシップ等の実施について

「キャリア委員会 委員長」

2024年度の就業体験実習・インターンシップも企業や団体の皆様のお力添えを頂き無事に修了することができ、学生たちは貴重な就労体験と深い学びを得ることができました。特段のご指導、ご配慮を賜りました企業・団体、山口県インターンシップ推進協議会の関係の皆様にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今年度は、山口県インターンシップ推進協議会を通じまして3日間の実習に3名、5日間の実習に2名、合計5名の3年次の学生が参加させていただきましたが、個々の学生たちはそれぞれの派遣先での特徴ある工夫を凝らした実習課程を経て職業に対する新たな認識を得ることができ、キャリア形成にむけて着実な成長を続けていることが実感できます。

本学では山口県インターンシップ推進協議会を通じての就業体験実習・インターンシップにあわせて単位認定科目としての「就業体験実習」、「インターンシップ」を行っており、多様な学生のニーズに対応したキャリア支援体制をとっています。本学での単位認定科目としての「就業体験実習」、「インターンシップ」の派遣実績はそれぞれ25名、11名の合計36名となりました。学年別内訳は、3年生が23名、2年生が13名で合計人数では昨年は横ばいです。これは就職情報サイト経由のイベントが増えているためと思われ、この結果3年生対象の単位認定を行うインターンシップへの参加人数の停滞傾向は今後も続いていくのではないかと分析しています。本学としては、このような傾向を踏まえつつ、山口県インターンシップ推進協議会の活用、本学の単位認定科目としての「就業体験実習」、「インターンシップ」の実施体制の充実を図り学生の多様な選択の中で3年生の参加者数増加はもちろんのこと、1,2年生の参加人数をさらに増やし、全体的な意識を高め、低学年から職業体験を行うことで、職業観の涵養に努めていきたいと考えております。

また、本学の特徴として世界に羽ばたく職業人材の育成を目指して海外に展開する日本企業のご協力を得てシンガポールや韓国釜山市での海外就業体験も実施しましたが、学生たちは国内では体験できない異なる言語、文化、商習慣のもとでの就業体験を行うことができ、国際ステージで働くことについて大きな修得ができました。

本学では、2022年6月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（いわゆる新三省合意）が改正されたことにより、大きく見直しを行いました。1,2年生から参加する「就業体験実習」、3年生が参加し、新三省合意の条件（タイプ3）に当てはまる場合の「インターンシップ」を明確に区分し、派遣先の企業・団体にもその趣旨をご理解いただき、学生のキャリア形成段階に応じた支援を行っています。今後、山口県インターンシップ推進協議会との連携を図りつつ、様々な就業体験の機会を学生たちに提供し、学生のニーズにあった支援体制の構築を強化していきたいと考えております。

企業・団体のご担当者様と協働しながら、より良い仕組みを作り上げていきたいと考えておりますので引き続きご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

インターンシップ報告会を終えて

「進路支援課・主事」

本学では、学生の就業意識の醸成や実践的なスキル獲得に向けたキャリア形成の向上を目的として、インターンシッププログラムへの参加を推進しております。学生が企業での実務経験を通じて、専門知識を深めるとともに、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を養うことを重視しています。インターンシップを通じて得た経験、特にものづくりの現場における体験は、学生のキャリア形成において非常に重要な役割を果たすと考えております。



本学では令和6年10月24日（木）にて、夏季インターンシップや就業体験等により実習に参加した学生に対して報告会を開催いたしました。

実習は、夏休みの3日間～1ヶ月程度の期間、受け入れ先の企業が用意するプログラムに従って実施され、学生のキャリア形成支援に係る取組に参加する目的を考えながら、実習先での経験を通して、社会と交流し、社会や企業の実情を知り、仕事に対する関心や働く意識を高め、社会人としての能力やマナーを身に付けることの必要性について身をもって知ることが目標となっています。

そうした自身の経験を発表資料にまとめアウトプットすることで、各人におけるより深い理解と習熟の定着を図るとともに、他の学生へのキャリア形成に関する見分を広げることにも寄与しております。

報告会は各学科にて行っており、今年度は47名の学生が報告会に参加し、自身の経験や今後の就職活動に対する意気込みを発表しておりました。また、学生同士での質問も多く飛び交い、情報交換の場としての機能を大いに果たしておりました。

今後、本会を継続的に行っていくために必要なこととして、インターンシップ参加率を向上させる必要があると考えています。そのためには、企業との連携をさらに強化する必要があり、特に貴会におけるインターンシッププログラムへの参加を学生に促す必要があると考えています。

また、インターンシップにおいては、企業側には学生に対して具体的な業務を任せ、実践的な経験を提供していただきたいと考えています。実務に即した業務経験により、学生は自身に必要な能力（スキル）を身をもって実感することができ、就職活動に対するモチベーションの向上にもつながると考えております。インターンシップに参加した学生がより自信を持って業務に取り組むことができれば、企業にとっても有益な結果が得られると期待しております。

インターンシップについて

「キャリアサポート室・主任」

昨年同様、本学の課題はインターンシップへの学生参加拡充であったが、本年も参加人数は少なかった。事前説明会やガイダンスなどでアナウンスをおこなったが参加者数の増加にはつながらなかったため、今後の募集方策を見直さなければならない。スポーツ強化部所属の学生は練習、試合などで参加が困難な者は多いが、参加しやすい体制をつくり、可能な限り多くの学生に参加してもらいたいと考えている。そのために次年度は、前年度インターンシップに参加した学生に参加する事のメリットや体験談をスピーチしてもらった時間を設けるなどして参加促進を図りたい。

参加学生からの報告として印象深いのは、まず受け入れ企業から各分野の業務、職務内容について詳しく聞くことで何となくのイメージから実際の内容を理解することができたというものである。体験の内容も各分野様々ではあるが、芸術学部の学生が参加した企業では受注したカレンダーの作成業務を手伝わせて頂いたそうである。その際、学生は実際にPCソフトのイラストレーターを使用し、デザインを志すうえで必須となるスキルを自分自身で再認識することができたと述べている。また、別の学生は、受け入れ企業で営業シミュレーションを体験し、購買状況が分かる資料から相手の状況を予測し商品を提供することの重要性について学ぶことができたと報告している。全ての参加学生に共通したのは、受け入れ各企業が社会人として取り組む姿勢や責任について熱心に伝えてくれようとしたという事実である。そして、企業から今後のキャリア形成についてレクチャーを受けたことにより、自己分析の重要性など就職活動に役立つ情報を自ら獲得し、続く就職活動に大いに役立てることが出来ると確信した。なお、今回は留学生3名が本インターンシップに参加した。留学生たちが受け入れ企業の事業内容、業務、職務内容だけでなく日本企業の就業形態、雰囲気なども感じる事が出来たことは本人たちにとって有意義な経験であったと考える。

本インターンシップ制度には、現状、多くの事業所が登録されているが、まだ参加業界および企業の偏りや不足も見受けられる。例えば、美容系を目指す学生が参加可能な業界として、美容系の受け入れ企業の参加を検討して頂きたい。美容サロンだけではなく、化粧品関連企業など県内に拠点を構え、同インターンシップ受け入れに名乗りを上げる企業はあると思われる。また、印刷業者だけでなくデザイン分野に関する事業所も数多くリストに掲載されることが望まれる。さらに本学には多くの留学生が在籍しているため、留学生採用の実績がある企業を受け入れ企業としてわかりやすくリストに明示して頂きたい。

最後に補助金制度について言及する。現状の交通費、宿泊費の半額補助を全額補助へ変更可能かご検討頂きたい。今年度実施したインターンシップでは1名の学生が宿泊を必要とした。下関市は山口県西端という立地から、希望事業所が下関以外となれば宿泊を伴うことが多い。さらに日本人学生と比し、経済的に厳しい状況にある留学生は、より充実した補助を受けることで本インターンシップに参加しやすくなり、彼らの参加促進にもつながると考えられる。本制度が学生と山口県内企業双方に大きなメリットをもたらすインターンシップとして存在するために、今後も本学としてさらなる学生参加者数の増加を目指し、県内企業への若年者定着に貢献していく所存である。

〈大学 報告〉

令和6年度のインターンシップを振り返って

「学生課・就職統括役」

本校は、水産業及びその関連分野で活躍できる人材の育成を図ることを目的としております。それに伴い、学生が在学中に志望する分野の団体及び企業で就業体験を行い、実社会での職業や働く者の役割を理解して、将来、社会人として働くことへの理解を深めて進路決定に役立てることを目的にインターンシップ制度を設けており、5日間以上の一定の条件をクリアするものについては単位認定も行っております。

私が所属する学生課は、主に夏休みなどの学生休業期間中において、行政機関などのインターンシップに対する窓口として、その募集要領に沿った学生からの申込みや受入先からの決定通知、インターンシップ終了後の報告書提出などの事務処理に加え、ビジネスマナーセミナーを行い、また、学生が所属する学科では、3年生及び船舶職員を志望する4年生を中心に企業等の募集に対する応募の手続きやインターンシップを受講する心構えなどの指導を行っています。

今回のインターンシップ(夏季)においては、地方自治体中心に4名のマッチングが行われました。終了後に学生から提出されたインターンシップ報告書からは、しっかりとした成果が伺え、実際に業務に触れることで今まで漠然とした組織や業務のイメージが同じだった点、違っていた点、例えば、自治体の仕事はデスクワークが中心と思っていたが、実際は現場に出て働いていることが分かった。当様々な気づきがあり、就業後のミスマッチ解消に非常に役立ったと思います。また、実際に「とても役に立った」「行って良かった」との声も聞かれ、体験後の就業意欲も高まっているようです。

令和5年度から、インターンシップの取り扱いが変わり、一定の要件を満たせば、そこで取得した学生の情報を広報活動・採用選考活動の開始後に使用することが可能となりました。令和6年度も、よりインターンシップを行う自治体及び企業が増えてきたように感じます。これからも、引き続き学生へのインターンシップ参加を推進できるよう努めて参りたいと思います。

最後に、受入事業所の方々や山口県インターンシップ推進協議会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。